

朝日新聞 2010(平成22)年6月17日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

6月17日

木曜日

13版▲

第2佐賀

佐賀 34

ぶらり ミュージアム

県立美術館

グルグルと渦巻くような回転を多用した特異な書で、「雲」の雨冠と「雨」は通常の手体から大きくはずれている。上詰まりの文字の配置、墨線の肥瘦、カスレなどが、ダイナミックな緊張感、絶妙なバランス感をかもしだし、「みる」楽しさにあふれている。

佐賀出身の明治の政治家、副島種臣は政治の第一線から退く明治6年、数え46歳ごろから漢詩をつくり、書を残している。この書は明治20年代前半、60歳

「帰雲飛雨」額

嵐の情景 龍のイメージ潜む

代前半の作品と考えられる。

「帰る雲、飛ぶ雨」とは嵐の情景だろうが、さらに龍のイメージが潜んでいる。種臣は天保13(1842)年に14歳で元服、「龍種」を名乗り、後にかしこまって「種臣」に改名しており、帝王の象徴の龍に対して格別の感情を持っていたにちがいない。

この書の回転が、雲を起し雨を呼ぶ龍の姿にみえてくる。

(県立美術館 福井尚寿)

佐賀市城内1の15の23。
電話 0952・24・394
7. バス停「博物館前」下
車、徒歩1分。開館は午前
9時半〜午後6時。月曜
(祝日なら翌日) 休館。



副島種臣(1828~1905) / 44.3㍍×136㍍ / 紙本墨書 / 額装 / 明治時代(19世紀) / 佐賀県立美術館蔵 / 7月11日まで展示